

行動科学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 香川 由美 助教		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
担当教員	香川 由美 助教、藤澤 美穂 准教授		
対象学年	1	区分・時間数	講義 9コマ 13.5時間
期間	前期		演習 0コマ 0時間
			実習 0コマ 0時間

・学修方針（講義概要等）

現代における重大な健康問題である慢性疾患の発生メカニズムは、特定の細菌や化学物質など単一のものでは説明がつけにくい。慢性疾患が「生活習慣病」や「環境病」といわれるように、その発生メカニズムには、健康にとって問題となる望ましくない生活や労働の諸条件、習慣、行動、さらには環境などが媒介的にあるいは直接的に作用している。

本講義では、人間が健康の保持・増進・回復を目的として行う保健行動に関わる社会的要因、文化的要因、心理的要因について概説する。また、現在、医療の現場で用いられている「人間が自らの意思で行動変容できるように促す」行動科学の理論とモデルを紹介する。医学的な知識に加えて行動科学の基礎理論を学び、人間の行動を科学的に捉える基礎知識を会得することは、医療現場において患者の課題についてロジックを立てて理解し、効果的にサポートすることに役立つ。また、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカルが共通の行動科学理論を理解することは、チーム医療を効果的に実施する上で極めて重要である。

行動科学モデルを種々の場面で応用するための基礎を修得することを目的とする。

・教育成果（アウトカム）

人の行動や意思決定に関わる社会的要因、文化要因、心理的要因、およびそれら要因間の相互作用に関する知識を会得し、行動科学理論の医療への応用方法を理解することにより、医療人として患者と対応する際に、患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できる。

（ディプロマポリシー：1,2,4,6）

・到達目標（SBO）

1. 医療における行動科学の役割を説明できる。
2. 社会、文化、心理的要因により健康観が異なることを理解できる。
3. 生活習慣や環境と健康の関連について説明できる。
4. 保健行動の実行を支える諸条件を列挙できる。
5. ストレスとコーピングについて説明できる。
6. 保健行動に関する主要な行動科学モデルを説明できる。
7. 健康に関わるエンパワーメントとライフスキルについて説明できる。
8. ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーションについて説明できる。
9. 行動科学モデルを、個人、集団、医療など、種々の場面に適用できることを理解できる。
10. 認知行動療法モデルについて説明できる。

・ 講義日程
【講義】

(矢) 東 1-A 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
6/17	月	1	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>医療における行動科学入門 (1) 行動科学と健康</p> <p>【双方向授業】 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動科学の学問的背景について説明できる。 2. 医療における行動科学の役割を説明できる。 3. さまざまな健康観について説明できる。 4. 健康教育の歴史を概説できる。 <p>事前学修：健康とはどのような状態をいうのか自分の考えをまとめる。 事後学修：講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>
6/20	木	3	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>医療における行動科学入門 (2) 健康と病気に関わる諸要因</p> <p>【双方向授業】 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣と健康の関連について説明できる。 2. 環境と健康の関連について説明できる。 3. ソーシャルサポート、ソーシャルキャピタルの健康への関わりを説明できる。 4. 社会経済的格差と健康の関わりについて説明できる。 <p>事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめる。 事後学修：講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>
6/24	月	3	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>保健行動論(1)</p> <p>【双方向授業】 【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健行動の種類を説明できる。 2. 自己効力感について説明できる。 3. ストレスの原因と評価について説明できる。 4. コーピングの種類と方法について説明できる。 <p>事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめる。 事後学修：講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>

7/1	月	1	心理学・ 行動科学分野	香川 由美 助教	<p>保健行動論(2) 【双方向授業】【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保健行動に関わる社会的要因について説明できる。 2.保健行動に関わる心理的要因について説明できる。 3.ヘルス・ビリーフ・モデルについて説明できる。 4.ローカス・オブ・コントロールについて説明できる。 <p>事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめる。 事後学修：講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>
7/4	木	3	心理学・ 行動科学分野	香川 由美 助教 藤澤 美穂 准教授	<p>保健行動論(3) 【アクティブラーニング】【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.トランスセオレティカル・モデルについて説明できる。 2. 事例を行動科学理論にあてはめて検討し、介入すべき変数を抽出できる。 3. 抽出した変数について、介入計画を立てることができる。 4. 介入計画に基づいてロールプレイができる。 <p>事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめる。 事後学修：講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>
7/8	月	1	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>認知行動療法理論の応用【ICT(WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習による行動形成について説明できる。 2.認知行動療法の基本モデルを説明できる。 3.認知と行動への介入技法について、要点を述べることができる。 <p>事前学修：「心理学」#1 学習に関する理論を復習する。 事後学修：講義内容を復習する。</p>
7/10	水	3	心理学・ 行動科学分野	香川 由美 助教	<p>総合的協働型健康づくりと行動経済学 【双方向授業】【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションについて説明できる。 2.プリシード・フレームワークについて説明できる。 3.プリシード・プロシード・モデルについて説明できる。 4. QOL の種類と評価について説明できる。 5. ナッジについて説明できる。

					<p>6.健康に関する行動経済学の理論を説明できる。</p> <p>事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめる。</p> <p>事後学修：講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>
7/18	木	3	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>態度分析、健康に関わるエンパワーメントとライフスキル【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解釈モデルについて説明できる。 2. LEARN Modelについて説明できる。 3. Porterの態度類型について説明できる。 4.ヘルスプロモーションにおけるエンパワーメント教育の役割について説明できる。 5.WHOの定義するライフスキルを列挙できる。 6.代表的なライフスキル教育について説明できる。 <p>事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめる。</p> <p>事後学修：講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。</p>
7/19	金	1	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション【双方向授業】【ICT (WebClass)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ヘルスリテラシーの定義について説明できる。 2.ヘルスリテラシーの種類を列挙できる。 3.ヘルスリテラシーの健康への影響について説明できる。 4.ヘルスコミュニケーションについて説明できる。 <p>事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめる。</p> <p>事後学修：講義内容を復習し、WebClassの理解度チェックに取り組む。また、これまでの講義内容を総復習して、WebClassの確認テストに取り組む。</p>

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	行動科学－健康づくりのための理論と応用 改訂第2版	畑 栄一、土井 由利子 編集	南江堂	2009

参	健康行動学：その理論、研究、実践の最新動向	木原雅子ほか（訳）	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2018
参	健康行動理論による研究と実践	日本健康教育学会編	医学書院	2019

・成績評価方法

総括評価：前期定期試験成績（80%）、レポート（10%）、確認テスト成績（10%）で評価する。レポート課題は講義時に評価基準と共に提示し、基準に基づいて評価する。

形成評価：講義毎に理解度チェックを WebClass で実施し、理解度、到達度を確認する。結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

・特記事項・その他

本科目では、一般的な講義に加えて双方向授業を適宜取り入れて課題に取り組む。講義で取り上げた課題については、講義内で解説する。事後学修として、各回講義の学修内容について理解度チェックを行い、WebClass に提出する。各問題の正答とポイントは WebClass にてフィードバックする。

確認テストを最終日に WebClass で実施する。

事前学修：シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、授業で取り上げる内容に関わるキーワードについて教科書等を用いて調べまとめる。最低 45 分以上を要する。

事後学修：講義内容を復習したうえで理解度チェックを行い、理解が不十分であった事項については配布資料、教科書等を用いて理解を深める。最低 45 分以上を要する。

レポート作成と確認テスト準備に 5 時間程度、前期定期試験前には 12 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

定期試験結果の概要については WebClass でフィードバックする。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (Safari pro FJY-00014)	1	講義資料の作成
講義	デスクトップ型 PC (EPSON MR4800E)	1	講義資料の提示
講義	書面カメラ・DVD プレーヤセット	1	講義資料の提示